

みんなの

よこはま水辺ビジョン ～大岡川水系下流域～

(素案)

横浜市

CHAPTER 01 はじめに

はじめに	/ p03
水辺ビジョン策定の目的	/ p04
対象エリア	/ p06
水辺ビジョンと既存計画の関係	/ p08

CHAPTER 02 水辺の特徴

水辺の特徴	/ p09
コラム：大岡川川の駅運営委員会	/ p12
コラム：よこはま運河チャレンジ	/ p13

CHAPTER 03 水辺ビジョン

水辺ビジョン	/ p14
みんなで連携して取り組むための基本姿勢	/ p15
目指す水辺の姿	/ p16
目指す水辺の姿(イメージ鳥瞰図)	/ p23
目指す水辺の姿(イメージ断面図)	/ p24

CHAPTER 04 水辺ビジョンの実現に向けて

取組を推進するための体制づくり	/ p26
取組を推進するための制度活用	/ p28
水辺ビジョンの実現により期待される効果	/ p29

CHAPTER 05 おわりに

おわりに	/ p30
------	-------

～資料編～

資料編 01 水辺の歴史

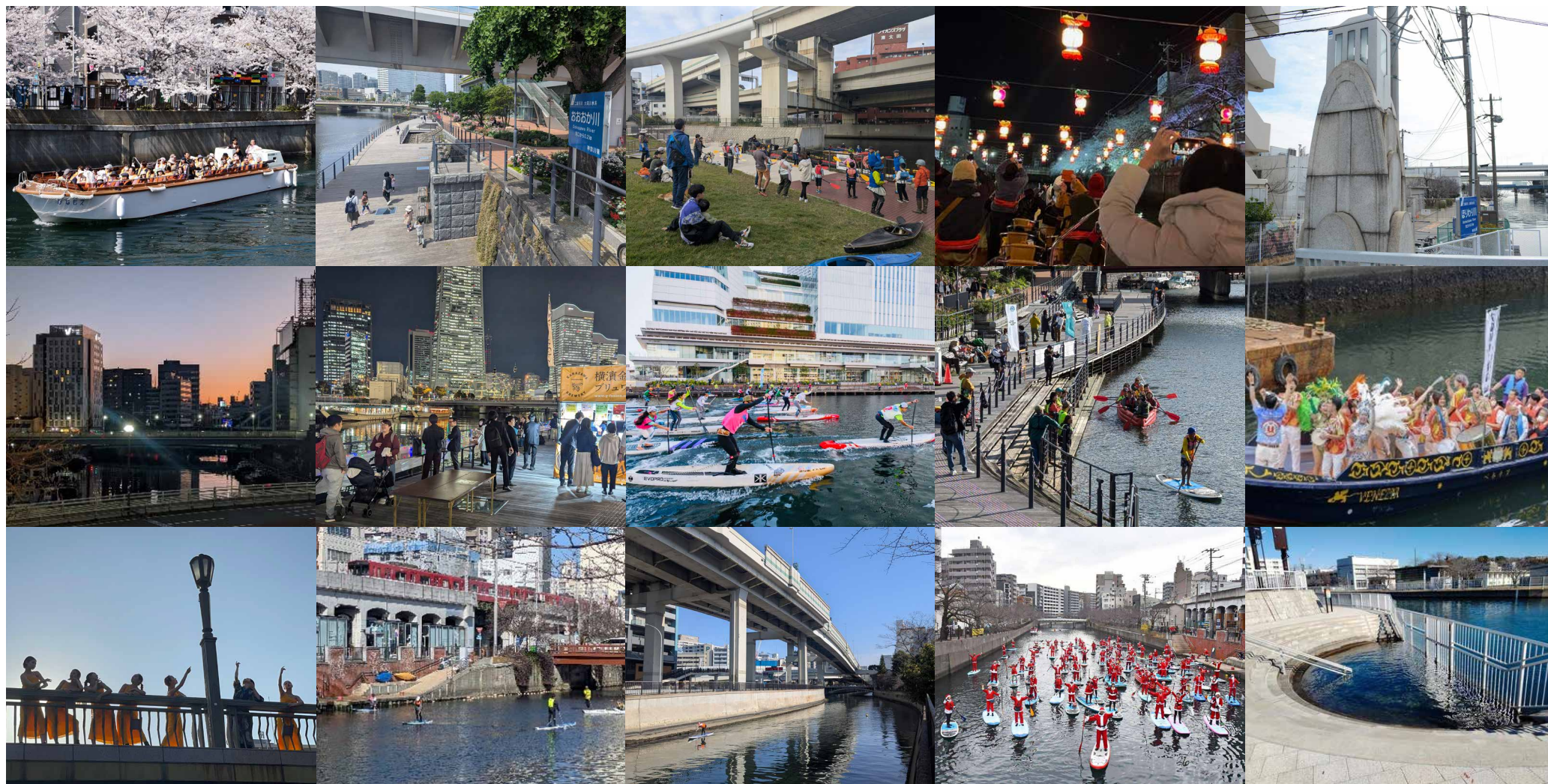
江戸時代	/ p32
明治時代～戦前	/ p32
戦中～戦後	/ p33
高度経済成長期	/ p33

資料編 02 親水施設

①大岡川夢ロード(右岸)	/ p34
②大岡川夢ロード(左岸)	/ p35
③横浜日ノ出棧橋	/ p36
④大岡川桜棧橋	/ p37
⑤ふれあいアクアパーク	/ p38
⑥堀割川いそご棧橋	/ p39
⑦石川町フェリーチェ棧橋	/ p40
⑧元町・中華街棧橋(仮称・整備中)	/ p40

横浜の都心臨海部を流れる大岡川、中村川・堀川、堀割川は、江戸時代から明治時代にかけて形作られた人工の河川です。これらの河川は、内海を埋め立てた新田開発から始まり、開港による繁栄、震災や戦災による荒廃、輸送システムの変化による都市構造の転換など、都市がたどった歴史的な変化のなかでその姿や役割を変えながら、今日もまちを流れています。

これらの河川を愛し、楽しみ、育んできた人たちと、この水辺に魅力を感じ新たな風を吹き込んでくれる人たち、みんなで水辺のみらいをつくっていく—その思いをかたちにするために水辺のビジョンをつくります。





2000年(平成12年)に神奈川県と横浜市は大岡川水系の下流域を対象とした「大岡川河川再生計画」を策定し、「きれいになりつつある水質を活かし沿川地域と一体的に行う地域の歴史・文化・生活と密接に結びついた大岡川の環境の整備と管理」を基本理念に掲げ、主に水辺の施設整備計画を定めました。この計画に基づき、多目的棧橋や親水施設、水辺の遊歩道といった水辺のハード整備が順次進められてきています。さらに、2009年(平成21年)には大岡川河川再生計画の事業等を「かわまちづくり計画」に位置付け、計画を推進してきました。

水辺のハード整備の進展に伴い、「よこはま運河チャレンジ」などの水辺を舞台にしたイベントや、SUPやカヌーなどの水上アクティビティが盛んに実施されるようになり、新たな水辺の風景として定着してきました。また、多目的棧橋や親水施設の管理・利用調整の実施や、動力船と非動力船が

安全に共存するための航行ガイドの策定など、便利で安全な水辺活用のための仕組みやルールづくりも進められてきました。こうした水辺のソフトの取組は、地域や事業者が主体となり行政と連携しながら進められています。

この間、国では、都市再生特別措置法や河川敷地占用許可準則などにおいて、官民連携や規制緩和によって都市再生を促進する制度が整備してきました。

これまでのハード・ソフト両面の蓄積を基に、新たな制度を活用しながら、エリアで一体的に水辺活用の取組を推進し、横浜のこの場所にしかない魅力資源を活かしてエリア全体を活性化させていくために「よこはま水辺ビジョン~大岡川水系下流域~」(以下「水辺ビジョン」という。)を策定します。本ビジョンを通して、連携して活動に取り組む地域・事業者・行政で方向性を共有するとともに、活動を広く発信していきます。



行政計画

- 2000 大岡川河川再生計画(県+市)
- 2009~ 横浜市地区かわまちづくり計画(市)
- 2026 水辺ビジョン(市)

水辺の施設整備 (ハード)

- 2004 北仲通地区:大岡川夢ロード完成(県)
- 2007 黄金町駅周辺地区:
大岡川桜栈橋完成(県)周辺道路完成(市)
- 2010 蒔田公園地区:
ふれあいアクアパーク完成(県)
- 2015 日ノ出町地区:横浜日ノ出栈橋完成(県)
周辺道路完成(市)
- 2020 横浜市役所水辺テラス完成(市)
- 2022 磯子地区:堀割川いそご栈橋完成(県)
ポケットパーク完成(市)
- 2026 石川町駅周辺地区:
石川町フェリーチェ栈橋完成(県)
周辺道路完成予定(市)
元町・中華街地区:
元町・中華街栈橋(仮称)着工(県)

水辺活用の動き (ソフト)

- 2007 大岡川川の駅運営委員会設立 
- 2012 Hama Bridge 濱橋会設立
水辺荘設立 
- 2013 横浜SUP俱樂部設立 
横浜運河パレード開始(後の運河チャレンジ)
リパークリーン&リバーサイドクリーン開始
- 2014 大岡川水上劇場開始
- 2018 横浜SUPマラソン開始
- 2022 関内・関外地区活性化協議会
- 2024 水辺活用と周辺の賑わいづくりPJ
- 2024 関内・関外地区水辺活用検討会発足
- 2025 エリアマネジメント検討部会発足

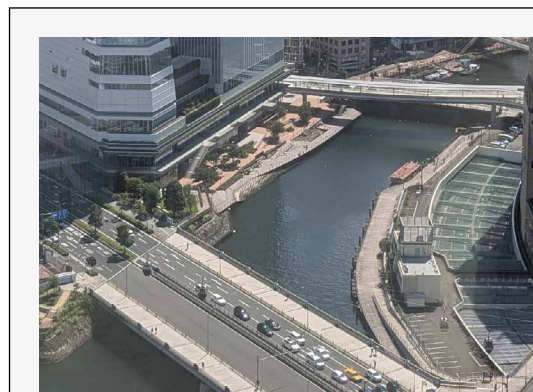
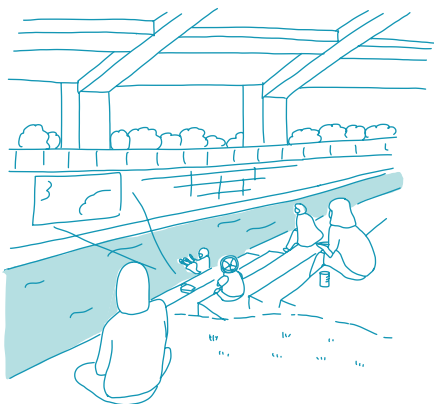


本ビジョンは、蒔田公園より下流の大岡川、中村川・堀川、堀割川を中心とした範囲を対象エリアとしています。

対象エリアは、歴史的な成立経緯や市民の生活に根差したローカルな魅力が特徴で、沿川には、野毛、吉田町、日ノ出町、黄金町、石川町、元町、中華街など、開港期から戦後にかけて成立した多様な文化を育んできた個性豊かな商業地があり、その周辺には都市型の住宅地が広がっています。

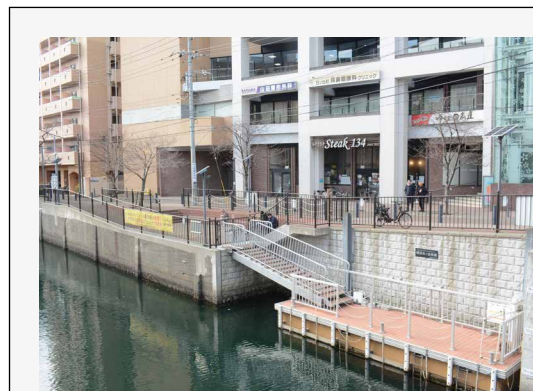
また、大岡川や中村川・堀川が流れ込む港湾エリアには、横浜を代表する観光スポットや商業・エンタメ施設が集積しており、棧橋も複数立地しています。対象エリアの水辺活用の取組を進めるうえでは、こうした港湾エリアの水辺の拠点としっかり連携していくことが重要です。

さらに、羽田空港や富津、三浦半島などの遠方の拠点との交流も進めていきます。



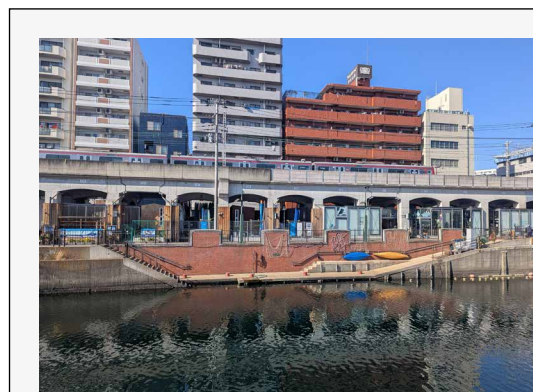
● 北仲通地区
大岡川夢ロード
(2004年完成)

- ・親水テラス
- ・階段護岸
- ・船舶接岸設備
- ・ベンチ



● 日ノ出町地区
横浜日ノ出棧橋
(2015年完成)

- ・浮棧橋
- ・広場スペース
- ・ベンチ



● 黄金町駅周辺地区
大岡川桜棧橋
(2007年完成)

- ・固定棧橋

対象エリア図



● 石川町駅周辺地区
石川町フェリーチェ栈橋
(2026年完成)



● 元町・中華街地区
元町・中華街栈橋(仮称)
(2026年着工)



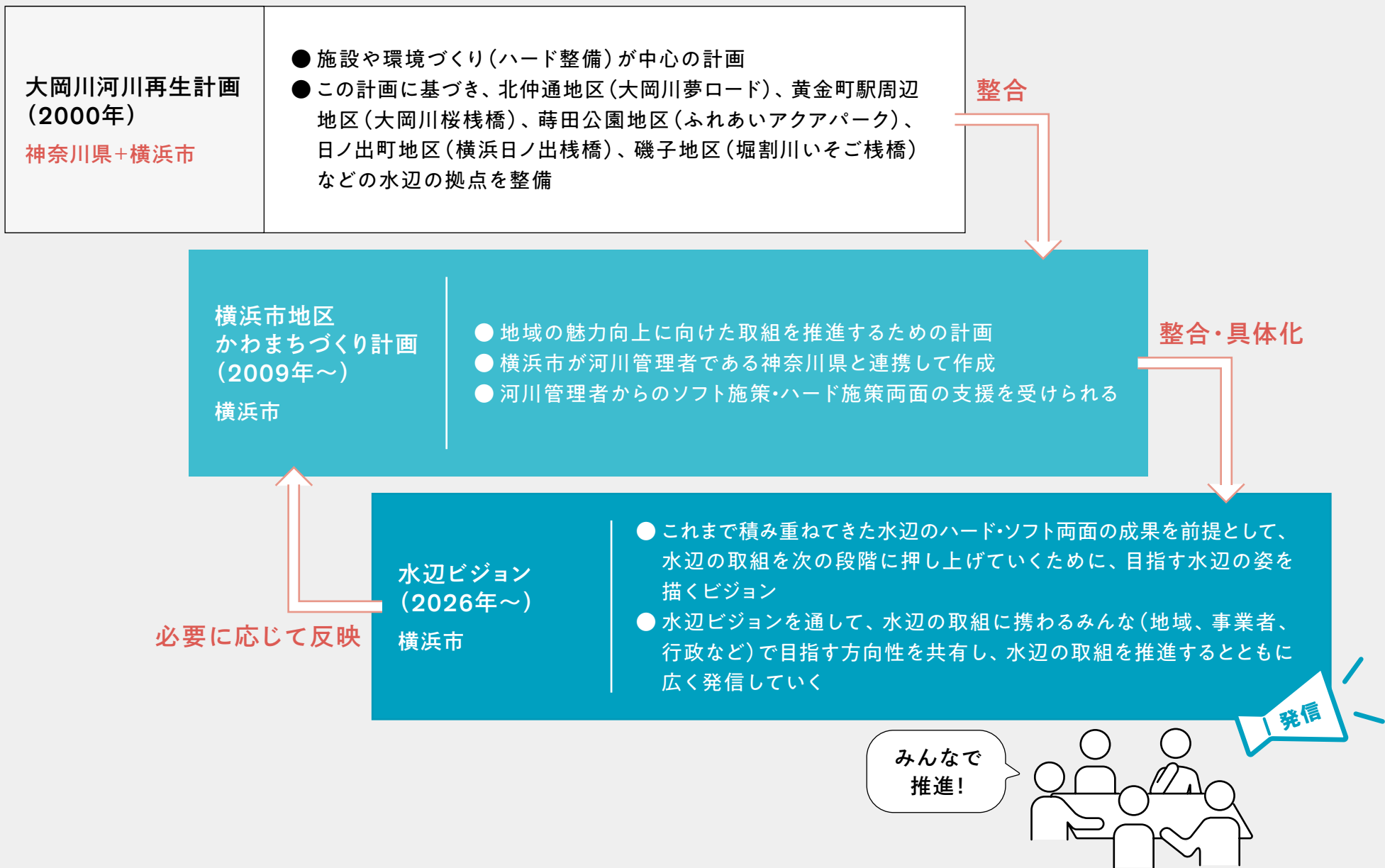
● 蒔田公園地区
ふれあいアクアパーク
(2010年完成)

- ・階段護岸
- ・広場スペース



● 磯子地区
堀割川いそご栈橋
(2022年完成)

- ・浮栈橋
- ・階段護岸
- ・広場スペース



河川と海の関係

大岡川下流域と海の間には、堰や水門がないため、船舶が自由に往来することが可能ですが、対象エリアは感潮域にあり、潮位によって橋の桁下のクリアランスや水深が変化するため、航行できる船舶のサイズに制約があります。干満差は最大で2mほどです。

河川の形状

大岡川は蒔田公園付近で、みなとみらいエリアへ流れる大岡川と山下埠頭付近へ流れる中村川・堀川に分岐してそれぞれが東京湾へと注いでいます。また、堀割川は久良岐橋・池下橋付近で中村川から分岐し根岸湾へと注いでいます。そのため海から川を通過して再び海へ出る周遊航路が可能となっています。

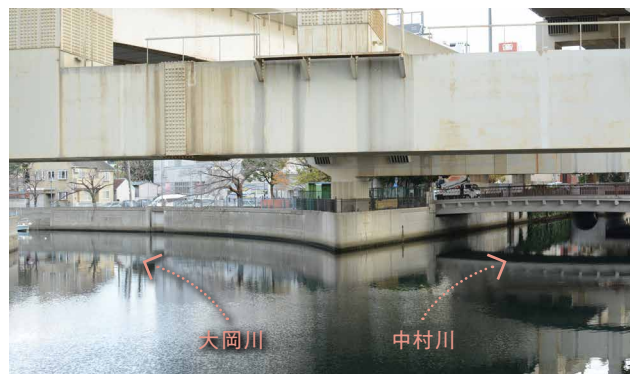
河川の構造

大岡川や中村川、堀川は堀込構造となっており、大部分が垂直なコンクリート護岸で覆われています。まちから水面への視界が遮られないため、身近に川を感じることができる一方で、実際に水に触れられる距離まで近づくことが難しい構造になっています。

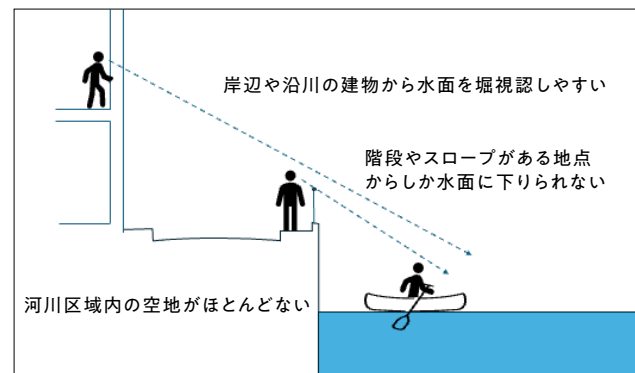
堀割川は、大岡川等と同様の堀込構造ですが、関東大震災の復興事業でつくられた石積護岸が残されています。水面と護岸の高低差が比較的小さいという特徴があります。



内港から川へと向かうクルーズ(新港橋付近)



大岡川と中村川の分岐点(蒔田公園付近)



堀込構造の河川の断面概略図

水質

大岡川水系の水質は、高度経済成長期の急激な都市化によって悪化しましたが、その後の下水道整備の進展にともない、現在では**大幅に改善**しています。現在でも、地域による**清掃や水質調査**などの地道な活動が継続しています。

治水安全性

1981年(昭和56年)に大岡川上流域と日野川からの洪水を全量カットし根岸湾に流す**大岡川分水路が完成**してからは、分水路より下流で大きな水害は発生していません。さらに、昨今は、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、神奈川県と横浜市が一体となって、ハード・ソフト両面の防災対策である「大岡川水系流域治水プロジェクト」を推進しています。

高速道路の高架

中村川・堀川は、その上空を首都高速神奈川3号狩場線がほぼ全川に渡り縦断しています。そのため、河川と周辺地域との視覚的・空間的つながりが損なわれたり、日当たりが悪く暗いなど、デメリットもありますが、反対に、比較的雨の影響を受けずに水面を活用できるなどメリットもあります。

貴重な歴史資産

震災復興橋や階段護岸、クレーンやビットなど、**横浜の運河の歴史を伝える遺構**が水辺のそこかしこに残っており、まちを特徴づける重要な要素になっています。



大岡川分水路(屏風ヶ浦橋から上流方向を見る)



高速道路が架かる堀川
(元町・中華街栈橋(仮称)予定地付近から下流方向を見る)



震災復興橋の一つである長者橋(1928年(昭和2年)竣工)

活発な市民活動

1980年代、大岡川の分水路整備やプロムナード整備が進む中、川に着目した市民活動が始動しました。1982年(昭和57年)に都市河川の再生・復権を目指して発足した「よこはまかわを考える会」は、「見る・学ぶ・遊ぶ・知らせる」をモットーに、市民自らが運営を担いながら、「横浜縦断カヌーフェスティバル」や「大岡川のハグロトンボ調査」、「舟で櫓こぎ体験」など、川を楽しみながら再生を考える活動を展開していきました。

1990年代には「ゆめはま2010プラン」(横浜市)が、2000年代になると「大岡川河川再生計画」(神奈川県・横浜市)が策定され、プロムナードや栈橋の整備が進みます。2007年(平成19年)に地域の要望を受けて「大岡川桜栈橋」が設置されると、町内会や商店会等で構成される「大岡川川の駅運営委員会」がその日常管理と利用調整を担いました。

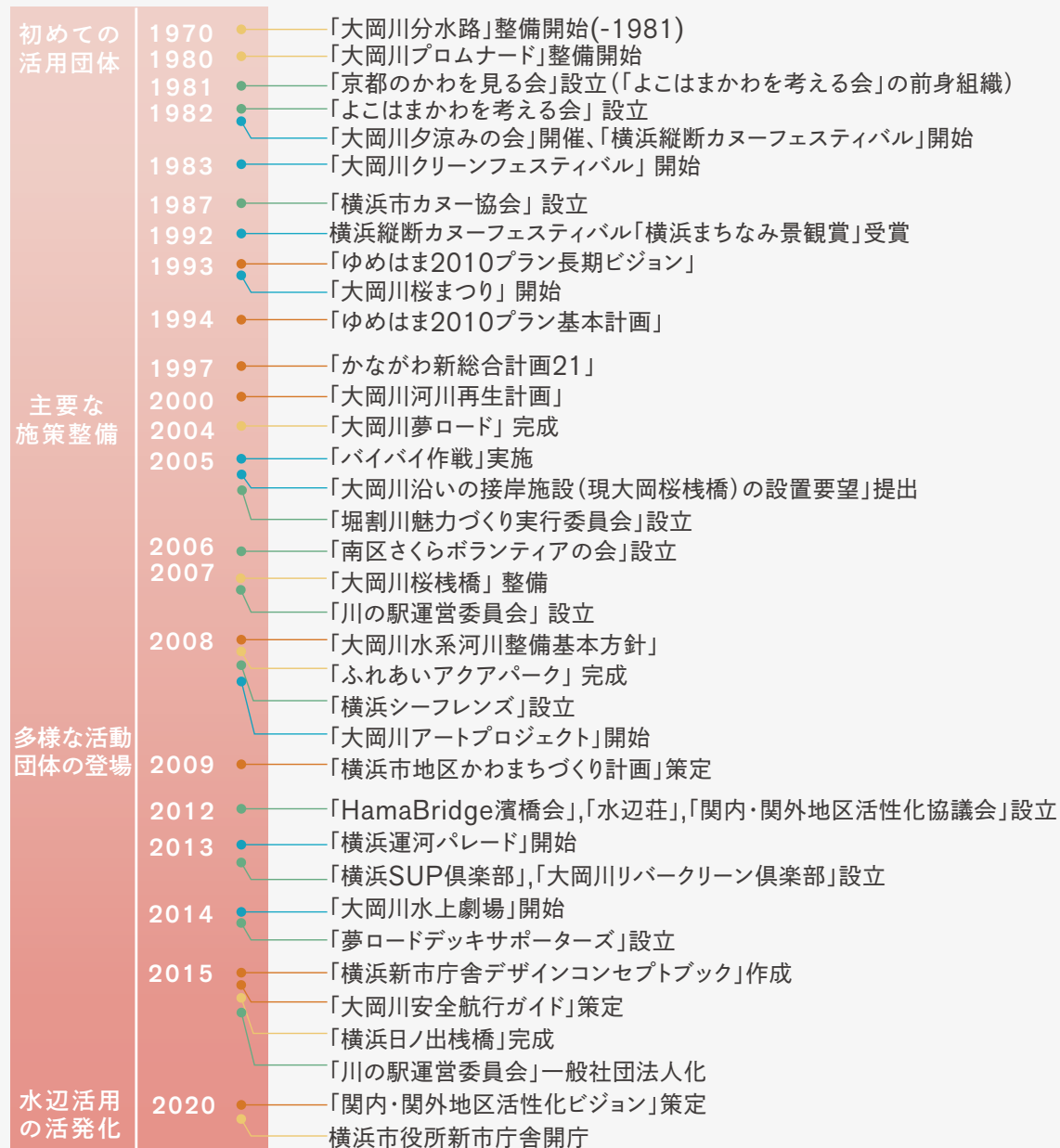
2000年代以降、「横浜シーフレンズ」や「HamaBridge濱橋会」、「水辺荘」、「横浜SUP倶楽部」、「夢ロードデッキサポーターズ」などの団体が次々と設立され、水辺の活動がより活発に展開されるようになりました。

2013年(平成25年)には、地域団体や船舶事業者、行政が実行委員会を結成して「運河パレード」を開始しました。その後、「運河パレード」は地域連携を拡充させ「運河チャレンジ」へと発展していきました。

現在では、石川町や元町・中華街で進められている栈橋整備に伴い、地元商店街組織等による活用の検討が進められています。

〈水辺の市民活動年表〉

凡例 ● 施策 ● 施設整備 ● 団体設立 ● イベント



川の駅から広がるまちづくり

「大岡川桜棧橋」や「横浜日ノ出棧橋」などの親水施設を中心に、地域の水辺空間を活用したまちづくりを推進しているのが、一般社団法人大岡川川の駅運営委員会です。棧橋の**日常管理**や**利用調整**をはじめとして、地域の環境保全、防災活動、イベント運営などにも取り組んでいます。

地域から生まれた運営委員会

2007年(平成19年)3月の大岡川桜棧橋の竣工に先立ち、神奈川県(旧)横浜治水事務所の承認を受け、施設の維持管理や利用調整を行う組織として**地域市民により設立**されました。2015年(平成27年)5月の「横浜日ノ出棧橋」の竣工を契機として、同年7月に地域団体・企業・個人が参加する**会員制の団体**として、一般社団法人大岡川川の駅運営委員会が正式に発足しました。この流れは、行政と地域が協働して水辺空間を活用するモデルケースとして、横浜の都市再生の一端を担っています。

広がる活動

大岡川川の駅運営委員会では、地域団体や事業者などと連携しながら、以下のような活動を展開しています。

- ①河川清掃や水質改善など川の環境改善に向けた取組
- ②船を使った物資輸送や炊き出しなどの防災の取組
- ③運河チャレンジはじめとする地域イベントの実施・協力
- ④「大岡川安全航行ガイド」の策定と周知

大岡川安全航行ガイド

シーカヤックやSUPなどの非動力船の航行が活発化するのにもない、**非動力船と動力船が安全に共存**していくための環境づくりが求められるようになりました。そこで、大岡川川の駅運営委員会が中心となり、実証実験の実施や関係行政機関や関係団体、利用者の意見集約を経て、2015年(平成27年)、親水施設の利用者の**自主的な取り決め**である「**大岡川安全航行ガイド**」を作成しました。



水上バイクによる引き波実験



普及啓発活動



横浜日ノ出棧橋や大岡川桜棧橋の付近に掲げられている注意喚起の横断幕

運河チャレンジとは

「よこはま運河チャレンジ」は、横浜の関内・関外地区とベイエリア等を水上交通でつなぎ、港や河川、周辺のまちなどの魅力、歴史・文化を広く発信していくことを目的に、よこはま都心部水上交通実行委員会（地域団体や企業、行政で構成）が実施している実証的な取組です。

運河パレードから運河チャレンジへ

この取組は、2013年（平成25年）に実施された「横浜運河パレード」からスタートしており、当初は船団が運河と海をぐるりと一周するパレードをメインとして、水辺の拠点の周辺のまちで食の市や音楽ライブ等を開催していました。やがて、新たな棧橋設置やその活用の可能性を幅広く探求する「運河チャレンジ」へと発展していきました。

多彩なコンテンツ

運河チャレンジには、食の市や音楽ライブといったコンテンツの他にも、消防による水難救助訓練や、運河の環境教育、水上&陸上の清掃活動、運河の歴史を伝える伝承サインをめぐるスタンプラリー等の多彩なコンテンツが盛り込まれています。

仮設棧橋の設置

運河チャレンジでは、これまで、棧橋整備が見込まれる地点（石川町や元町・中華街など）に仮設棧橋を設置し、実際に乗客を乗せたクルーズを実証することで、実際の棧橋整備の足がかりをつくってきました。これらのクルーズは、水上から普段とは異なる視点で街を眺められる体験として好評を博しました。

